

学校だより おおにしやま



学力調査報告特別号

校訓 質実剛健

第 519 号

令和元年 9月30日発行

津幡町立津幡小学校

TEL 288-8511

4月に、6年生を対象に全国学力調査（国語・算数・意識調査）と石川県学力調査（理科・社会・意識調査）、5年生を対象に津幡町学力調査（国語・算数・理科）、4年生を対象に石川県学力調査（国語・算数・意識調査）が実施されました。全ての調査結果がそろいましたので、その結果をご報告いたします。

なお、子どもたち一人一人への調査結果の返却は終了しております。

(1) 令和元年度 津幡小学校4・5・6年生の学力調査結果

本校の学力調査結果を、全国や石川県の平均と比較し、5段階に分類してご報告します。

6年生	全国学力調査		県学力調査		平均正答率が
	国語	算数	理科	社会	
県との比較	↓	↘	↘	↘	↑ 5%以上上回る
国との比較	→	→	/		↘ 2~5%上回る
5年生	津幡町学力調査				→ 平均と同程度
	国語	算数	理科	↘ 2~5%下回る	
国との比較	↑	→	↘	↓ 5%以上下回る	
4年生	石川県学力調査				
	国語	算数			
県との比較	→	↘			

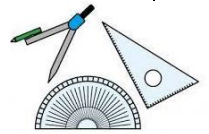
6年生の全国学力調査の結果は7月下旬に公表され、石川県は国語が全国2位、算数が全国1位という、昨年に引き続きすばらしい結果でした。

津幡小学校6年生は、全国平均とほぼ同じですが、石川県との比較では平均をやや下回りました。石川県学力調査（6年理科・社会、4年国語・算数）でも、県平均をやや下回るものが多くなりました。津幡町学力調査（5年国語・算数・理科）では、全国平均を国語が上回り、算数がほぼ同じ、理科がやや下回るという結果でした。

これまでの指導のあり方を反省し、今後の取組へとつなげなければなりません。昨年度同様に、この結果を問題ごとに詳しく分析し、本校の児童の弱かったところを検証しました。今後は、日々の授業をよりよいものに改善し、朝学習や補充学習、家庭学習なども活用しながら、力をつけていきたいと考えています。

(2) 学力調査結果の分析及び2学期以降の指導の重点

教科	課題(弱かったところ)	改善のための具体的な取組内容
国語	<ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて、根拠や理由を明確にして書くこと 問いに対する理由を文章から引用して書くこと 自分が書いた文章を読み返したり、遂行したりすること 主語・述語・修飾語の意味を理解し、正しく文章を書くこと 	<ol style="list-style-type: none"> ① 三角ロジック(考え・根拠・理由)を用いながら、書いたり、話したりできるように、教師からの問い返しや深める発問を意識して授業を行う。また、そのために本文にサイドラインを引かせたり、ワークシートを準備したりする。 ② 引用・根拠・理由等に関する条件付き作文を書くことを継続して行う。書いた後は、自分で読み返す機会を設定する。(朝学習や授業) ③ 学年に応じた指導の重点や重点単元 <ul style="list-style-type: none"> ・低学年：事柄の順序、文と文のつながり、主語・述語の関係 ・中学年：接続語と段落の関係、内容による段落分け、書く内容の中心 ・高学年：文章全体の構成、事実と意見、説得力ある文章の工夫
算数	<ul style="list-style-type: none"> 図や表、グラフ、式からきまりや特徴を考え、表現すること 資料の特徴や傾向を読み取り、何倍か考えること テープ図と分数の大きさを関連付けて考えること 伴って変わる2つの量のきまりを見つけ、式を使って表現すること 	<ol style="list-style-type: none"> ① 立式の根拠や理由を明確にさせるための問い返しや図と式を関連付けさせるために深めの発問を工夫する。 ② 情報過多や不足の問題から必要な情報を考えさせる。 ③ 学年に応じた指導の重点や重点単元 <ul style="list-style-type: none"> ・低学年：立式とブロック図やアレイ図との関連付け「10のまとまり」や「1つ分」の明確化 ・中学年：立式とテープ図や表との関連付け「決まった数」の明確化 ・高学年：立式と数直線図との関連付け「もともなる大きさ1」の明確化
社会	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて必要な情報を関連付けて読み、理由を明確にして説明すること 伝えたいことと資料を関連付けて、資料を効果的に提示して話すこと 	<ol style="list-style-type: none"> ① 目的や意図に応じて必要な情報を関連付けて読み取り、根拠や理由を明確にしながらかいたり、話したりできるように、教師からの問い返しや深める発問をする。 ② 学年に応じた指導の重点や重点単元 <ul style="list-style-type: none"> ・3年：「店ではたらく人」では、販売の工夫と消費者の願いを関連付けて考える。 ・4年：「ごみのしよりと利用」では、処理の仕方と人口変化のグラフとを関連付けて考える。 ・高学年：複数の資料から分かること(事実)と自分の考え(解釈)を意識させながら学習する。授業の中心となるキーワードを設定し、その言葉を使って自分の考えをまとめる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 太陽の動きと地面にできる影の関係を考えること 水を熱したときの温度変化のグラフを理解すること 植物の発芽の成長に関する「条件制御」を考えること 顕微鏡の使い方を理解すること 	<ol style="list-style-type: none"> ① 児童の生活経験や既習事項、観察・実験の結果等を根拠や理由としながらかいたり、話したりできるように、教師からの問い返しや深める発問をする。 ② 学年に応じた指導の重点や重点単元 <ul style="list-style-type: none"> ・3年：「太陽とかけの動き」では、影遊び等の体験活動を通して、太陽と影の位置関係に気づかせ、課題に取り組ませる。 ・4年：「水のすがたと温度」の実験では、課題解決のためにどのような実験をすればよいのか、何を調べるのか、結果から何が分かるのか等について考えさせる。 ・5年：「物のとけ方」では、実験結果を表やグラフに表し、その規則性について条件を制御して調べる方法を考えさせる。 ・6年：「てこのはたらき」では、グループで予想し、体験させながら、くぎを抜く方法を「支点」「力点」「作用点」「支点からの距離」というキーワードを使って説明させる。



(3) 意識調査(4, 6年生より)

○肯定的な回答の割合が国や県平均よりも高かったもの

- ・理科の勉強が好き。授業がよくわかる。(4・6年)
- ・社会の授業がよくわかる。(4年)
- ・学校の宿題をしている(4年)
- ・学校のきまりを守っている。(6年)
- ・先生は、間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくれる(6年)
- ・先生は、あなたのよいところをわかってくれている。(4・6年)

▲肯定的な回答の割合が国や県平均よりも低かったもの

- ・国語の勉強が好き。(4・6年)
- ・算数の勉強が好き。(4・6年)
- ・授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている。(4・6年)
- ・わからなかったことをもう一度勉強し直している。(4・6年)
- ・自分の考えを発表したり、話し合ったりしている。(6年)